

# 製鉄、原料を採取

## 大原小 6年生 秋には体験学習

一関市大東町大原の内野地区の砂鉄川で15日、大原小学校(小島正明校長、児童152人)の6年生25人が砂鉄採取を行った。児童たちは9月に

欣一事務局長ら会員3人が協力し、同町大原の下川原橋近くで実施。会員が川底をくわで掘り起して、児童たちは手持ちの大型磁石で砂鉄を取った。

製鉄体験などを支援する住民団体・ホッパの会(勝部昌平会長)の勝部



内野地区の砂鉄川で砂鉄採取に熱中する大原小6年生

夢中で取り組む児童たちのバケツには砂鉄が次々とたまり、勝部仁美さん(11)は「こんなにこの川で砂鉄が取れるのは知らなかった。たくさん取れたのでもっとやりたくなつた」と笑顔を見せていた。

内野地区は良質な砂鉄を産出する砂鉄川の上流部に当たり、江戸時代以前から明治時代初期ごろまでは製

鉄も行われていた。同校では旧内野小での取り組みを継承し、6年生が総合的な学習の時間で内野地区の製鉄の歴史や文化を学習。地区内にある砂鉄川たたら製鉄学習館

で、たたら製鉄を体験している。

同日は32分を採取。今後乾かした上で、児童たちで不純物を取り除いて純度を高め、製鉄体験に利用する。

## 大東・一関 小原大 津々興味取り砂鉄



磁石に付いた砂鉄に歓声を上げる大原小の6年生

一関市大東町の大原小(小島正明校長、児童152人)の6年生25人は15日、同町内野地区の砂鉄川上流で、たたら製鉄体験の材料にする砂鉄を取った。児童は50キを目標

に、くわで掘った川底の砂に磁石に当てて砂鉄を集めた。菊池央人君は「昔は苦勞して砂鉄を集めていたと分かった」とかつて地域で盛んだった製鉄を想像。小山莉紗さんは

「どんな鉄ができるか楽しみ」と9月に行う体験に期待を高めていた。

たたら製鉄の再現に取り組む地元「ホッパの会」が作業を指導した。勝部欣一事務局

長は「橋野高炉跡の世界文化遺産登録など鉄に関心が高まっている。子どもたちが地域の鉄文化に目を向けてほしい」と見守った。